

パートナーシップ制度などを取り巻く状況

LGBTQ+は国内人口の8.9%

(電通ダイバーシティラボ[LGBT調査2020])

⇒11人に1人の割合

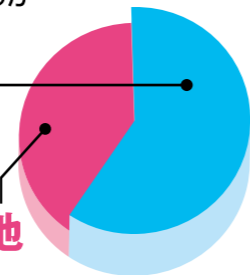
- L** = レズビアン(女性同性愛者)
- G** = ゲイ(男性同性愛者)
- B** = バイセクシュアル(両性愛者)
- T** = トランスジェンダー
(出生時に割り当てられた性別とは違う性別で生きる人・生きたい人)
- Q** = (性自認や性的指向について、まだ決まっていないと思う、わからない、違和感がある、ひとつに決まるものではないと思う人)
- +** = (それ以外の多様な性のあり方を示す。)

三条市の状況

LGBTQ+の意味を知っているか聞いたことがあるか

ある
6割

ない、その他
4割



三条市のパートナーシップ制度 ファミリーシップ制度

パートナーシップ制度

県内2番目の制定

同性カップルなどが互いを人生のパートナーとして日常生活において相互に協力し合うことを宣誓されたパートナーシップを市が公認します。

ファミリーシップ制度

県内初の制定

パートナーシップ宣誓者の子を養育か近親者と生計を同一にし、日常生活において協力することを宣誓するファミリーシップを市が公認します。

公認されると一部の行政サービス対象となります

- ・パートナーやファミリーも世帯員の住民票を取得できます
 - ・住民票の続柄の表記を縁故者に変更できます
 - ・パートナーも保育所(園)の入所申し込みなどができます
 - ・パートナーやファミリーも市営住宅の入居審査の対象となります
- など



詳しくは三条市ホームページをご覧ください。

全国1,700以上の自治体中、**240自治体でパートナーシップ制度を導入** (2022年10月11日現在)

(出典:虹色ダイバーシティHP)

パートナーシップ制度・ファミリーシップ制度を始めました

個性を尊重し、性別に捉わられることなく、誰もが暮らしやすいまちづくりを進めるため、昨年9月に制定したパートナーシップ制度とファミリーシップ制度を紹介します。

滝沢市長に聞く 三条市の パートナーシップ・ ファミリーシップ制度



制度を始めたきっかけは
高校生の一言

2年前、三条高校2年生に講演する機会がありました。質疑応答で一人の生徒が真っ先に手を挙げ、「なぜ三条市にはパートナーシップ制度がないのですか?」と質問してきました。

私自身、自分を比較的若い市長と置いていたにもかかわらず、若者が感じている課題に十分なアンテナを張れていなかったことに気が付かされ、ショックでした。

その後、直ぐに制度を取り巻く環境を研究し、知れば知る程、これからの三条市に必要な制度であ

約2,300筆の署名が
後押しに

7月、市内でLGBTQ+の正しい知識を広げる活動を行う団体のPRIDE LINKの2人から、市内でのパートナーシップ制度の導入に賛同する約2,300筆もの署名の提出を受けました。1カ月の活動でこれ程の署名が集まったこととでした。

この署名が最後の後押しとなり、制度の導入を決定しました。

と感じました。質問してくれた生徒に感謝しています。



三条市パートナーシップ制度・ファミリーシップ制度の開始を発表する記者会見の様子

目指すは誰もが
暮らしやすい社会の実現

市民一人一人の個性や多様な生き方を尊重し、性別に捉わられることなく、誰もが暮らしやすい社会の実現を目指しています。

パートナーシップ制度とファミリーシップ制度がその一助となり、当事者の方々が暮らしやすい三条市となるよう進めてまいります。